

求められるニーズへ～NPOの広がりはいスパイラル型へ～

活動先：NPO 法人 ふわり

私は活動に行く前、とても目標が漠然としていて、自分が活動先に行って果たして何が出来るのだろう、と不安でいっぱいだった。そんな私に、初めての活動先への訪問での衝撃はとても大きいものだった。NPOの集まる初めての試みである“愛フェス”の実行委員として活動するという事だった。それも部分的なものではなく、運営に関わり、代表の戸枝さんを始め、コンサルティングの方や、企業の方など社会人の方と共に作り上げていくということだった。

活動を開始し、会議に参加させて頂き、最初のうちは動揺してしまい指示を待つだけといった感じになってしまっていた。そんな私に戸枝さんは、「自分がいいと思ったら好きなようにやればいいよ。それが一生懸命やった結果であれば、もし何か失敗してしまったとしても全部僕が責任をとるから。だから、やっごらん。」とおっしゃった。その言葉を聞き、自分から計画し、提案し、しっかり意見を言うことの大切さ、またやってみるということがどれだけ大切なことかということに気付かされた。また、鎌倉まで今回愛フェスで上映した映画を先に見に連れて行って頂き、弁護士さん、監督さん、俳優さんなどと“ふくし”について語ったことから、今まで自分のとらえてきた視野の狭さに気付かされた。多くの方とのかかわりの中で、自分の考えもどんどん広がり、自分の行動が少しでも誰かのためになるということは素晴らしいことだと思った。今までしたことのない経験をたくさん積ませていただき、人と人とのつながり、意見の交換、熱い思いの共有の中から何か新しいものが生まれてくるということを学んだ。最初、言われるのを待っていた私だったが、たくさんの経験を積ませて頂いたことで、提案したり、意見を言ったり出来るようになった。また、社会でのマナー、言葉遣いなど基本的なことから学び、いかに今まで自分が出来ていなかったのか、社会に通用していなかったのかということに気付かされた。

活動の中で一番感じたことは、自分の“ふくし”に対する捉え方が本当に狭いものであったということである。私の考えていたふくしとは、利用者さんとの関わりが大部分のものであった。しかし、それは大きく違っていた。もちろん、利用者さんとの関わりもとても重要である。だがその背景には、利用者さんにとっての環境づくりが多くの人たちによって行われていたのである。

私は今回サービスマネジメントの活動に行き、ふわりの会議に参加させて頂いたりする中で、そのことをとても強く感じた。リフレクションシートを読み返してみると、夏休みの活動に行く前と行った後で、書いている内容ががらりと変わっている。それくらい、このサービスマネジメントの活動は自分のこれからを大きく変えてしまう影響力を持っていた今回の活動を通して、自分で考え、それに責任を持ち実践してみることの大切さを学び、挑戦してみることが出来た。

約2カ月間、空いている時間はふわりに通い、愛フェスに向けての準備をし、体調を崩してしまい、大変だった。しかし、その分感じることでできた達成感は計り知れないものであった。そこで出会った人たちは、今も繋がっているし、とても大切な人たちになった。

今までの私は嫌なことがあるとそこから逃げ出そうとし、現実から目を背けようとしていた部分があった。しかし、活動を通して大変だからこそ、正面から向き合う、自分でどうにかしようと思えるようになった。そして、もっともっと“ふくし”を大きな視野で学びたいと感じた。サービスラーニングとしての活動は終わってしまったが、私はここで終わりにしたくない。まだまだ、NPOの活動に参加し、多くのことを学びたいと考えている。実際、今もふわりに行かせて頂き、いまはふわりの傘下である社会福祉法人でヘルパーとしてアルバイトさせて頂き、利用者さんの一番近くでふくしについて学んでいる。そんな繋がりもこの活動から得ることが出来た。

今回、ふわりでの活動、また愛フェスを通して学んだことは、まだまだNPOが地域に広がっていない部分があるということ、保守的な部分があるということである。NPOの活動は独自性があり、地域の声聞き、そのニーズにこたえることが出来るという素晴らしいものである。しかし、NPOの活動に地域の人々が参加しているかということ、まだまだ程遠い部分がある。今回のようなイベントはその問題に対して正面から向き合ったものではないだろうか。ふわりではこうした状況を打破するため、NPOをドーナツ型からスパイラル型へすべく日々活動している。ドーナツ型とは、NPOで輪を作ってしまう、もし興味がある人がいたとしてもそこへ加わることが難しい状況を生んでしまう。スパイラル型になれば、1人が手を挙げ、そこへまた1人が加わり、どんどん渦を巻きながら広がっていくことが出来る。今後のNPOの活動ではその部分が求められてくるのではないだろうか。今回のような大きなイベントを通して、興味を持った一般の人が、自分の参加できる形で少しでもNPOと関わりを持つことがとても大切になってくると考える。

愛フェスで私は映画担当をさせて頂いた。その映画が今の社会をとっても象徴しているものであり、問題提起をしているものであった。格差社会の中で、人々は都会へ出ていき、上を目指し、古き良き日本のあり方、人々の温かさを忘れてしまっているところがある。そんな社会のあり方を今、見直すいい機会だという趣旨の映画であった。当たり前なのが当たり前出来ない世の中だからこそ、NPOの活動に参加してみようということはとても大きなことになってくるのではないだろうか。機械相手だけじゃわからない、人と人との間にだけ生まれる温かいものを感じることが出来るはずである。NPOの活動への参加の仕方もひとつに限定されない。普段は、学生であったり主婦であったり、また会社員であったとしても休日だけNPOの活動に参加するという方法もある。また、時間はないけれど寄付という形で参加するという方法もある。それは人それぞれである。それをNPOが限定することがあってはいけない。だからこそ、愛フェスのようなイベントを愛知だけではなく、全国に広げていき、興味を持ってもらい参加してもらうことが必要になってくる。

今回サービスラーニングの活動で、色々な立場からふくしに関わって見える方々の話を聞き、今の社会の問題はそこであるということに気付いた。問題提起するだけではなく、自分も何か動くということをお忘れないうでいたい。小さな声を聞き、そのニーズにこたえるためにはどうしたらいいのか考え、提案していきたい。提案し、理解してもらい、責任を持って行動できるようになりたい。私1人の小さな動きであっても、それが渦を巻いて何か大きなものになっていくと信じたい。それに気づかせてもらい、自分のこれからのあり方、将来への考え方も変えてしまうような、そんな大きな影響力のあった活動であった。ふわりで学ばせて頂いたことを決して忘れずに、終わりではなく、ここからまた新しいスタートを切りたいと思う。